

職人のまち再生 職人交流によるゲストハウス改修

江差いにしえ資源研究会【北海道江差町】



設立年月	2013年3月
メンバー数	24人
代表者名	室谷 元男(むろや・もとお)
連絡先	〒043-0064 北海道檜山郡江差町字柏町220番地 中島 晶子
電話	090-7656-5473 FAX 0139-52-2600
メールアドレス	omichi@esashi.sakura.ne.jp
ホームページ	http://esashi.sakura.ne.jp/may/
facebookページ	http://www.facebook.com/cafesatsukigura/
＜団体のミッション＞	私たち「江差の北前職人文化」を継承・発展させた独創性の溢れる「職人のまち」づくりを目指して、職人交流と人材育成を通じて歴史的建物のオーナーを探し、工房や店舗での活用を推進する活動を行っています。

団体設立経緯

江差町歴まち地区のまちづくりを担ってきた「歴まち商店街協同組合」が中心となり、商店街の枠を超えた活動を行うために職人グループや農林漁業者、歴史文芸関係者、公共団体に連携を呼び掛け平成25年に立ち上げた組織です。歴史文化を活かしながら新たな地域素材や地場産品を組み合わせて発掘・開発・PRする活動を通じて、江差町の資源の再認識と人材育成を行い、活き活きとした情緒溢れる歴史的街並みを形成することを目指しています。

地域概要

江差町の「歴まち地区」は江戸時代にニシン漁と北前船交易で栄え、今も歴史的建物や文化が色濃く残る江差の観光の中心地です。平成初期より官民一体で「歴史を生かすまちづくり」に取り組んでおり、住民や商店街の活動は、意欲的に歴史文化が感じられる個性豊かな街並みづくりに貢献しています。しかし、過疎化や景気低迷、建物の老朽化により、歴史的資源の多くが消失の危機にあり、歴史的建物の担い手探しが急務となっています。

活動に至った背景や理由

活動拠点の交流カフェの運営を開始しながら、「資源活用」と「人材育成・誘致」に主眼を置いた活動展開を目指し、町外からの職人や学生と交流活動を行っていく中で、じっくり制作活動に取り組む、また手ほどきを受ける際の宿泊場所に大きな課題がありました。長期滞在に適した安価で自炊ができる、くつろげ、時に地域住民と交流ができるゲストハウスがあれば、より交流が活発化できると考え、今回のゲストハウス改修の活動に至りました。



活動内容と成果

1. ゲストハウス整備場所の決定について

私たちの活動拠点である江戸時代末期に建てられた4棟の土蔵群「皐月蔵(さつきぐら)」は、職人と一緒に地域住民の協力を得ながら少しづつ改修を重ねています。将来は職人の創作活動拠点にすることを目指して進化中です。職人と共に作り上げるノウハウを活かし、歴まち地区の空き物件を職人と地域住民が共に協力し、自らの手で町に新たな職人を呼び込む「ゲストハウス」を創造することになりました。ゲストハウスとして整備する空き店舗は、メンバーの1人が所有するもので、江差町の景勝地である鷗島の入り口部分に位置し、当会が活動拠点としている「皐月蔵」から徒歩2~3分の場所にあります。本来であればテナントへ賃借することが望ましいのですが、景気低迷のため新たな入居者がなかなか見つからないため、まちの活性化に効果があるゲストハウスとしての当面の活用を了承していただきました。



2. ゲストハウス勉強会の実施、計画・設計作業

まずゲストハウス改修の整備内容と運営方針を決定するにあたり、学生のアイディアや専門家の助言を取り入れることとし、大学研究室の取組みの一環として協力を申し出させていただいた東北芸術工科大学西澤研究室に、改修計画の作成協力を依頼しました。研究室でアイディア提案に取り組むに当たって、4月29日に西澤准教授が来町し、ゲストハウス整備候補である空き店舗の下見を行いました。

現場の状況と、限られた資金のなかで宿泊可能な空間を作るにあたっての課題を確認していただき、研究室内での検討を経て、8月9日~11日の日程で西澤准教授が再度学生5名を率いて来町し、現地勉強会・アイディアプレゼンを実施しました。改修提案を受け、3案のうち、「動く家具」案で進めることとし、詳細な設計提案を引き続き依頼しました。

「動く家具」案は、空き店舗の大空間に小さな個室のように使うことができる可動式の寝台家具を設置するもので、宿泊客の人数や構成にあわせて自由にレイアウトを変えることを想定し、各ブースに電源を供給し、照明とコンセントが設置できるよう配慮されています。仮に設置した空き店舗にテナント入居希望者が現れた場合には、解体し別の空き店舗へ移動して活用できる利点もあります。

課題としては、旅館業法・建築基準法上の制約で宿泊施設としての認定が難しいため、法規をクリアするまではあくまでも居住場所として、短期の賃貸借契約により特定の利用者に貸し出すことが条件になります。

3. 「動く家具案」のアイディアコンペと図面作成

「動く家具案」についてさらにアイディアを出し合い詳細を詰めるため、研究室内で学生が各自制作した家具案を発表・審査するアイディアコンペが実施されました。西澤准教授の指導のもと現場と使い方にマッチした2パターンのアイディアを抽出し、サイズチェックのための図面と模型の作製を行っていただきました。



4. ワークショップ予定の遅れと大学との交流

大学研究室へ設計依頼したことと、春から秋にかけて職人が多忙になることで、予定していたスケジュール組みに不具合が生じ、ゲストハウス整備のワークショップが大きく遅れてしまいました。しかし、大学で図面作成を進めている間、「職人のまち再生」に向けた取組みとして、函館及び札幌の大学（はこだて未来大学、北海道教育大学、北海道大学等）との交流を行いました。当会で運営している「皐月蔵チャミセ」を通じてランチ会や懇親会の受け入れを行ったり、意見交換やまち歩きガイドを重ね、複数の大学と交流する中で、ゲストハウス運営やまちづくり・人材育成に関する連携体制を整えることができました。

5. 町内職人による施工図作成及びワークショップ準備

西澤研究室から提出を受けた設計図を基に実際に寝台家具を作るワークショップを行うことになり、準備のため3月上旬に江差町内の職人で組織する江差技能者協会の指導協力のもと、施工図の作成及び、現場でのワークショップがスムーズに実施できるように事前のカットや下組み制作準備にかかりました。北海道では冬期間は職人の仕事が減る時期でもあり、打合せ段階より熱心に協力していただくことができました。



6. 寝台家具づくりワークショップ実施

3月28日に、ゲストハウスの現場にて寝台家具づくりワークショップを実施しました。江差町技能者協会所属の職人5名に指導を依頼し、研究会メンバー、技能者協会会員、他一般町民が参加し、家具の組立及び設置作業を行いました。本体の組立に1日かかったのち、建具・電気の取付、塗装工事と合計3日間、職人とワークショップ参加者トータル20名程が関わり作業を行いました。専門的で難しい工程はどうしても経験者に頼らざるを得ませんが、指導いただいた職人以外の技能者協会のメンバーが、ボランティアでワークショップに参加してくださいり、各自の得意分野を活かしながらスムーズに進みました。少しでも多くの職人と町民が関わることで、より愛着のある空間になり、運営の際の協力体制構築にもつなげることができました。



7. 江差町との協議

寝台家具ワークショップと平行して、具体的な運営方法を共有するため、江差町役場と協議を行いました。江差町では平成28年度より大学協働のまちづくりを推進しています。実際にワークショップで完成した寝台家具の可能性を目の当たりにしてイメージ共有ができたこともあり、新たな宿泊モデル事業として町から支援協力をいただけることになりました。今後大学生による宿泊実習を行いながら、さらに手を加えてより良い宿泊環境の創造を目指します。壁・床やイス・テーブルの家具等を中心にアイディアを出し合い、学生と一緒に改修していく旨の事業を大学と協働で立ち上げることで合意しました。

8. ゲストハウス運営準備とリーフレット作成

ゲストハウスの備品として不可欠なものとして寝具がありますが、町内の施設で貸出可能な寝具を借受けできることになり、運営開始に大きく前進しました。大学生の研究の一環としての活用を想定し、今後も使いながら改良・進化させるゲストハウスという位置づけでリーフレットを作成しました。大学生・町外職人などによるモデル活用を進めていく計画です。

町外の優れた職人や作家と接する中で、町内の若者に新たな夢や独立心が生まれるかもしれませんし、長期滞在で江差のまちが好きになったアーティストが移住して空き土蔵のオーナーになるかもしれない。そんな夢を持ち続けて、ゲストハウスのその向こうにある希望に向かって一歩一歩前進していきたいと考えています。

課題と解決策

ゲストハウス対象物件が空き店舗であったため、限られた予算のなかで実施するには一般住宅より光熱費・賃料共にコストが高く、宿泊室の間仕切りや設備を新たに設置しなければなりません。さらに宿泊施設として営業するには建築基準法等の規制をクリアする必要があり、改修が大掛かりになることが課題でした。間仕切りについては、東北芸術工科大学研究室のアイディアにより、「寝台家具ユニット」を組むことでプライベート空間を作り出すことができ、また他の物件への移動も可能とし活用の幅が広がりました。光熱費・賃料に関しては、平成28年度の利用分は日数が少ないとから免除していただき、平成29年度以降は江差町との協議で、家賃補助や改装費補助を受けることができることとなりました。当面は特定の利用者にのみ貸し出すこととして、平成29年度の活動のなかで改良を重ね、簡易宿泊施設としての営業を模索することになりました。

今後の予定

今回作成した寝台家具ユニットを活用したゲストハウスの改良を重ねるため、北海道教育大学などの学生に協力していただき、実際に宿泊まりしながら改良点を出し合い、職人と共に学生が自ら居心地の良い空間に仕上げていく「みんなでつくる職人の棲家プロジェクト」活動を行う計画です。活動にあたっては、江差町より家賃や必要な活動費の補助を受け、江差町の新たな滞在空間のモデルとして継続展開していきます。